

【武蔵】八王子城

【築城時期】天正 15 年 (1587)
 【廃城時期】天正 18 年 (1590)
 【使用した勢力】北条氏
 【主な城主・城代】北条氏照
 【所在地】東京都八王子市元八王子町ほか



信濃勢 (真田昌幸ほか)

太鼓曲輪

太鼓曲輪の堡壘

北条氏康の三男として生まれた氏照は長らく滝山城を居城としていたが、天正 15 年 (1587) に入る頃から、対豊臣戦に備えた北条軍の戦略再配置の一環として、甲斐国境に近い場所に八王子城を築く。同 18 年に豊臣軍が侵攻したとき、氏照は主力を率いて小田原にあり、八王子城は留守居衆と領内から徴発した民兵が守備していたが、6月23日に前田利家・上杉景勝らの大軍に強襲され、その日のうちに陥落してほどなく廃城となった。

況を西側から俯瞰したものの。すでに山麓の御主殿は炎上しており、前田勢の先鋒は尾根上の曲輪群を攻め登りつつある。一方、西方尾根上から突破を試みる上杉勢は、石塁ライン・堡壘と巨大な堀切とを組み合わせた築城に阻まれ、守備隊の猛射を浴びている。しかし、後続諸隊は広正面に展開すべく迂回を開始しており、関東の戦国城郭史に終止符を打つ激戦も、数時間後には決着することとなる。

イラストは、6月23日午前10時頃の戦

監修・文=西股総生

(初出：歴史群像 117 2013年2月号)

八王子城西側鳥瞰図

日本の城 イラスト 香川元太郎 監修・文 西股総生

2018年7月3日 発行

「馬冷やし」の堀切

西方堡壘群

伝大天守